令和２年度第２回横浜環境活動賞審査委員会　会議録	
日　　時	令和３年２月 17 日（水）13 時～16 時
開 催 場 所	市庁舎 18 階共用会議室　みなと１・２
出　席　者	戸川孝則委員長、北村亘委員、石原信也委員、川村久美子委員、鈴木智香子委員、為崎緑委員、吉井肇委員
欠　席　者	なし
開 催 形 態	公開（傍聴者なし）
議　　題	１　応募者審査 ２　生物多様性特別賞審査 ３　第 28 回横浜環境活動賞受賞候補者の決定
決 定 事 項	以下の団体が、第 28 回横浜環境活動賞受賞候補者として決定した。 １　市民の部 ア 大賞 横浜植物会 イ 実践賞 旭北地区連合自治会　中堀川いこいの場づくり 美しが丘中部自治会　アセス委員会　遊歩道ワーキンググループ　100 段階段プロジェクト NPO 法人　H&K　「小松菜プロジェクト活動」 初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会 ほどがや産直便 ボランティア大鳥 ２　企業の部 ア 大賞 有限会社マルニ商店 イ 実践賞 株式会社エナ・ストーン 株式会社 JVC ケンウッド 武松商事株式会社 東京レーダー株式会社・本社工場 ３　児童・生徒・学生の部 ア 大賞 横浜市立永田台小学校 イ 実践賞 横浜市立市ケ尾中学校 横浜市立折本小学校 ４　生物多様性特別賞 横浜植物会
議　　事	１　応募者審査 （戸川委員長）ただいまから、議事に入ります。 はじめに、審査委員会の進行について、事務局から説明をお願いします。

	（事務局）それでは、本日の審査について、ご説明します。 　委員の皆様には、事前に応募書類および事前質問をもとに審査をしていただきました。本日は、審査委員の皆様による意見交換もふまえて、受賞候補者を決定していただきます。 　審査は、市民の部、企業の部、児童・生徒・学生の部の順に行います。 　審査委員の皆様は、意見交換の後、お手元の事前採点表の点数を必要に応じて赤字で修正してください。点数の変更がない場合は、そのままで結構です。採点表は、各部門の審査が終わるごとに、事務局で集め、集計します。Zoomで御参加の委員の皆様は、審査委員会開催前に事務局からお送りしております「採点表の送付について」というメール件名のアドレスに御返信いただく形で御提出をお願いします。 　25点満点中平均点15点以上を実践賞の候補者とし、最高得点を大賞の候補者とします。 　生物多様性特別賞については、事前審査にて各委員１者を推薦していただいています。推薦のあった応募者について討議し、討議内容を踏まえ、再度ふさわしいと考えられる応募者を１者、選んでいただきます。 　事務局からの説明は、以上です。 （戸川委員長）今の説明に対し、審査委員の皆様、応募者の皆様、何かご質問がありますでしょうか。 （各委員）意見なし （戸川委員長）ないようですので、審査を始めたいと思います。 **(1)　市民の部** **<u>旭北地区連合自治会中堀川いこいの場づくり</u>** **＜意見交換＞** （為崎委員）旭区主催の講座で開始された取組とのことで、今後どのように自立した活動をされていくのかが課題かと思います。環境に直結しているというよりは、美化や地域づくりに軸足が置かれているような感じがします。環境活動への直接的な効果はこれからというイメージが強かったです。ただ企業と連携している点は良いと思いました。 （北村委員）ホタルの放流が環境ではメインの取組と思いましたが、現状ではホタルをどこかからもらってきてそれを増やして放しているということになると、そこでうまく生態系のサイクルが回っているかどうかというのが現状の評価です。これが何年後かにもうそこに放流しなくてもホタルが住み着くようになりました、というようになるとよいと思います。まだそういう段階ではなく、これからなのかと思いますので、そこは為崎委員と同じです。個人的にはホタル放流というのを、どこからホタルを持ってきたのかすごく気になりました。地元のホタル、生物多様性での遺伝的多様性では、どこの遺伝子を使うのかを気にしたりするため、そこが少し気になったところです。 （戸川委員長）勉強不足で申し訳ありませんが、これは重要な問題なのでしょうか。 （北村委員）今、生物多様性の中身としては、種の多様性だけでなく、生態系の多様性と遺伝的多様性があり、遺伝子がどれだけ多様があるかを大事にしようとされています。その中で、もともとその地域にいない遺伝子を入れてしまうと

	いうことで、遺伝子汚染という言葉が最近出てきています。そのような意味で、ここにもともといたホタルと、どこかからとってきたホタルがこどもをつくってしまうことになると、もともとこの地域にいたはずの遺伝子がなくなってしまうのが、かなり問題視されていることの一つになっているかと思います。 （為崎委員）そこの部分が確認できなければ、表彰対象とするのは難しそうでしょうか。 （北村委員）ホタルの出所を事前に確認しておけばよかったとは思います。ホタルが主の活動であれば、私としては気になりますが、それ以外の活動もされていることを考えると、これだけを理由に表彰対象から外すというのは良くないと思います。 （戸川委員長）「横浜ホタルの会」から指導を受けていると応募書類に記載があります。 （北村委員）おそらく、地元のホタルを保存してあるはずですので、助言を受けて行っているのであれば、問題ないと思います。ただ、遺伝子汚染の問題をクリアしたとしても、まだ定着まで至っていないという印象を受けているのは変わりません。 （戸川委員長）ありがとうございます。 （川村委員）今の話に付け加えて言いますと、自治会町内会が自然の保全活動をするときに、どういうふうに始めたらいいかということを勉強していただきたい。また今後、手法について伝えていくということが必要になってくるのではないかと思います。 （戸川委員長）コメントとしてフィードバックするという意味でしょうか。 （川村委員）そうですね。自治会町内会などいろいろな活動をやりたいと思ったときに、どのように活動を始めたらいいのかに対して、何らかアドバイスを出すということも大事かと思います。情報不足や知識不足というところに対し、どのようにサポートすることができるかを検討したほうがよい。 （戸川委員長）活動支援などのサポート体制は、市民局などほかの部署で整備しているかと思いますので、事務局は確認しておいてください。すでに体制があるのであれば、そちらを御案内する形になります。 （戸川委員長）それでは採点をお願いします。 （委員）**採点** **<u>美しが丘中部自治会　アセス委員会　遊歩道ワーキンググループ　100 段階段プロジェクト</u>** **＜意見交換＞** （川村委員）「環境」とは、どういう範囲のことを私たちが求めているのかということが問われている案件だと感じました。「まちづくり」が傾向としては強いと思います。一生懸命自然とのつながりを応募書類から探しましたが、まだまだこれからという感じがしました。 （石原委員）川村委員と同じ意見です。遊歩道の整備を通じて、地域の人々の健康

	増進や住環境の向上、また良好なまちづくりという点はあると思うのですが、環境活動賞を審査する立場となると環境の活動についてはどうなのかなというのがありまして、そのようなところで評価ができなかったというところです。 （為崎委員）まちづくり活動としてはとてもユニークで面白いと思いました。環境について質問をしたりしたのですが、「環境調査」や「生き物地図」などは今後というところで、環境の活動を視野には入れているけれど、環境で成果を上げるのはこれからという気がしました。この賞の表彰対象として評価をする時に、どのように評価をしたらよいのだろうかと迷いました。 （北村委員）今回おそらく、「環境」というより、「まちづくり」だとか「ふれあい」というところに主力を置かれている団体があったという気がしており、今のうちに議論しておいたほうがよいのか、それとも逐一議論したほうがよいのかということが気になっています。採点の修正に影響しそうだなと思っているので、「環境活動のテーマ」として市としてどこまでセーフなのか、審査対象としてどこまでセーフにしましょうかという意識を統一できたらと思いますがいかがでしょうか。 （事務局）次回以降の審査についてご一緒にご議論させていただきたい部分です。今期に関しましては、幅広く環境の保全、再生、創造ということを対象にしており、可能でしたら幅広く環境をとらえて、審査いただけたらと考えておりますがいかがでしょうか。 （戸川委員長）様々な活動がありますが、今回は環境活動として評価していくということでいかがでしょうか。 （川村委員）この団体は、まちづくりで各賞受賞しているので、そういうことを含めて審査するとよいと思います。 （為崎委員）この団体に限らず、応募者へは、「参加者の意識が変わったことはありますか」という質問をさせていただきました。今回は、がちがちに環境に絞ってしまうと難しいので、間接的な活動であってもいいので、何らかの環境に関する成果があがっていれば対象にしてもよいと思い、評価をしました。 （北村委員）レギュレーション以外であれば応募の時点ではじくべきですので、受け取って審査しないということもできないので、受け取った以上、環境活動に濃い薄いはあるにしてもきちんと評価をするということで納得しました。 （戸川委員長）この賞が立ち上がった時の「環境」という意味と、令和３年での「環境」のとらえ方が異なっているというのが最大のポイントかと思います。 それでは採点にうつらせていただきます。お願いします。 （委員）**採点** **<u>NPO 法人　H&K　「小松菜プロジェクト活動」</u>** **＜意見交換＞** （為崎委員）どのように解釈するか迷った部分があります。子育て支援が軸でそこからの食育という位置づけが強いと思いまして、高い評価をしづらかったです。これを強力な地産地消の推進という観点でとれば、評価は高くなると思います

	が、私としてはどちらに軸足をとっていると考えればいいかというので悩んだ部分で、結果、子育て支援の延長線上だと考え、評価をしました。 （戸川委員長）子育て支援をしているグループで、環境というキーワードで活動しているチームというイメージ。そこを評価していただきたいということですね。 （為崎委員）他の委員の方が、「全体の事業の中の小松菜の活動の比重はどれくらいですか」という御質問をされていましたが、その質問に対し、４割と回答していたので、その回答を見たときに比較的力を入れて活動しているという印象を受けました。完全に子育て支援の付属的なものというわけではなく、意味を持ってきちんと取り組まれているということを４割という数字から感じました。 （川村委員）応募書類では整理がついていない印象があったので、どのくらいの割合ですかと質問しました。地産地消という活動をするときに、どういう活動をすればそちらに向かっていくのかという軸足を移し始めているけれど、子育て支援やふれあいに部分的に残っているようです。今回の応募では、他にも地産地消のグループがでてくるが、その団体との比較が頭にあり、あまり評価できなかったということがあります。 （北村委員）比較的私は点数を高めに評価しました。落とし込みがよかったかなと思います。食育という非常に漠然とした概念を、小松菜に絞って活動するというわかりやすさが非常に良いと思います。私が評価した点は、新しく活動を始めるときにこのくらい割り切るといろいろな活動がしやすくなり、真似しやすいというところを高く評価しました。子育てが主眼かもしれませんが、そこから何か活動しようという時に、とっかかりとして落とし込みが非常にわかりやすいと思いました。 （戸川委員長）採点をお願いします。 （委員）**採点** **<u>初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会</u>** **＜意見交換＞** （為崎委員）北村委員のコメント見ますと、とらえ方は私と一緒ですが、評価は逆になったという感じがします。安全・安心・防犯の活動という観点からとらえて、あまり環境に直接的な成果はないと評価しましたが、北村委員は人のつながりからまちの環境を良くするということで良い評価をつけられていました。同じとらえ方でも評価が分かれるのだと思いました。 （北村委員）環境学部には、私のように生き物のことを研究している人もいれば、まちづくりや防災を専門に研究されている先生もいます。今回あらためて「環境」とは何だろうと考えたときに、人のまわりの環境というのも「環境」だとこの段階で思いを変えて、その評価をするとよいのではないかと思いました。おそらくここは意見が分かれるところだと思いますが、人の身の回りの環境を良くするという観点に立った時に「良い活動だな」と感じた。確かに、見方が違う

	ので意見が分かれてしまうのだと思いました。どちらの意見もよくわかりますが、難しいとは思います。 （戸川委員長）例えば、ごみ拾いは防犯につながっているというが、環境にもプラスの効果は確実にあり、それを放っておくと環境自体も悪くなります。割れ窓理論を考えますと非常に効果をあげていますし、そこをどう評価するか。圧倒的に悪くなったのを良くすることだけが環境保全の良いことではないとすれば、すごく地道だけれども大きく評価できるのではという意見もあります。 （川村委員）アートをいかした環境問題とまちづくりとアートでどういうふうにつながるかと質問させていただきました。「アートを使って」というところは、例えば環境問題に関しても環境についてどのように市民に伝えていくかということです。例えば今新しい環境問題が出てきて、博物館がすべての世代に向けて情報を集めて展示するといった取組をかなりし始めています。いろいろと分野が遠いように見えるものでも結び付けて知らせていくということで、アートを書いたことは頭に残りました。中身的にはどういったものなのか、パブリックアートによる不法投棄防止など応募書類に記載があるが、その辺のところが少し気になりました。 （鈴木委員）ここの場所にはアートのイベントもあり、何度も伺っています。今回、環境浄化推進協議会では、環境をどのようにとらえているのか自分としては迷い、北村委員と為崎委員の間で迷いながら採点しました。 （戸川委員長）では、採点をお願いします。 （委員）**採点** <u>ほどがや産直便</u> **＜意見交換＞** （石原委員）活動の会員が６名という限られた人数で、非常に内容の濃い取組をされています。横浜市のみどりアップ計画の柱にもある「市民が身近に農を感じる場をつくる」であったり、地産地消への貢献も非常にされています。直売所や飲食店のマッピングなどのアイディアは、商工会議所も見習っていかなければいけないと感心いたしました。 （為崎委員）農家さんと粘り強くコンタクトをとって、かなりの農家さんをマップに落とし込んだということに加え、手法のところで、みんながふれやすい形で野菜を販売していることにも注目しました。商店の前を借りて置いてみたり、お弁当にしてみたりということで、産直野菜をどこか１か所でまとめて売るのではなく、それが波及しやすいような形で皆さんに身近な形で手に取ってもらえるよう実施しているというところを評価させていただきました。 （川村委員）保土ケ谷区役所推薦で出てきているが、この団体が「ほどがや産直便」の活動を開始したのが、そういったことを学ぶ講座の受講生として始めたということで、区役所が影響を与えて、その活動が花開く、またそれを区役所が引き継いでということで、ある意味市民と行政がうまくやりとりしあって活動を展

	開しているという点では、非常に理想的というイメージを抱きました。 （北村委員）地産地消問題というのは、解決しなければいけない問題だと思っているのですが、どのように解決するのかとなった時に、今回の提案というのは非常にコストパフォーマンスが良いと思っています。非常にダイレクトに解決に結びつく、それでいて例えばパンフレットをたくさん作ったりだとかいうことよりもはるかにみんなの行動に結びつく、行動を重視しての活動になっていて、このような活動を続ければ即座に地産地消問題が解決するのではと思いました。環境問題に向けて、「今後」ではなくダイレクトにいくとこうなるというのが見られてよかったと思っています。 （戸川委員長）それでは、採点をお願いします。 （委員）**採点** **<u>ボランティア大鳥</u>** **＜意見交換＞** （為崎委員）環境に直接結びつくところは、クリーンアップラリーで、気軽に子どもたちもみんな参加でき、無理なく継続できる取組であり、長年にわたりみんなが入れる仕組みをつくって継続していることを評価しました。それ以外で直接的な環境活動という部分ではありませんが、学校と継続的にきめ細かくコンタクトをとって連携を続けてきているところも、非常にモデル性があるというところで評価をしました。 （川村委員）環境活動としてごみ拾いを長年展開してきた中で、次のフェーズにのぼっています。ふれあいをコーディネートするということを非常に強く信念として持っていらっしゃるということは、印象として非常に残りました。ただ、活動が古典的という印象を受けました。 （鈴木委員）小学校の活動から応募されなかったのでしょうか。大鳥小学校から応募があったことはないのでしょうか。 （事務局）過去には出ておりません。 （戸川委員長）地道に長年続けているというのが重要なのだろうなとあらためて感じる応募書類でした。 それでは採点をお願いします。 （委員）**採点** **<u>横浜植物会</u>** **＜意見交換＞** （戸川委員長）長年という言葉を一言で言っていいのかというくらいの活動ですね。過去に受賞歴がある団体です。 （北村委員）各委員の点数を見ているとすごく二極化しています。長年の活動をどうとらえるかということと、やっていることが非常にシンプルだということで、評価が難しい案件だと思っています。長年のデータは研究者がとろうと思って

	もとれないものの一つであり、こういったものを市民がとり続けてきたおかげで研究ができると思っています。これを見ながら、ぜひ次の新しい研究の種を見つけられないかなと、一研究者としては思ってしまいます。そのため、どうしても私としては点数を高く評価してしまいます。ただ、実際、評価において考慮しなければいけない点は、前回からどのくらいブラッシュアップしたのかというところで、その辺に関しては私が審査員になる前の受賞でしたので、その頃からいらっしゃった委員にお聞きしたいです。 （戸川委員長）前回受賞が平成 15 年度ですので、当時の委員はもういません。 応募書類の中に前回受賞からの発展内容という項目があります。この内容が私の評価につながっています。 （北村委員）これを見て、さらにここから標本の点数がこれだけ増えているのは良いと思いました。ただ、評価がわかれるとは思いました。長年の活動に向けて、そしてこれからの環境問題の解決となるヒントがこの資料にあると思っているところです。そういうところをもっと積極的にアピールしていただいたら、もっと評価がしやすかったかなと思います。 （戸川委員長）本当はもっと深掘りすると出てくるんだろうなという気がしています。このようなデータというのはものすごく重要で、こういうデータをもとに、いろいろな方がいろいろなことをして、違うアウトプットやアウトカムが出ていると思います。ただ、この応募書類からの情報ですと、そこがうまく拾えないと思った案件です。 （北村委員）私はここから新しいアウトプットが出せるのではないかと考えています。そういったところまで出てきていたら、もっと評価しやすかったと思います。 （戸川委員長）１回受賞しているので、そこが少し難しくて、素晴らしい取組をされているのですが、前回とどう評価してよいかというのが、評価の二極化の理由かなと思います。 （川村委員）私としては、大賞を３回とってもいいぐらいの内容だと思っています。市民活動しかできないようなデータを長年地道に積み重ねているということは、同時に教育もしており、そして同時に新しい調査者を育てているとうことです。これに関して言えば、目を見張るような活動だと思います。ということは、何回大賞をもらってもいいぐらいの活動だと私は思います。 （鈴木委員）この資料からは読み取れませんでした。私たちの身の回りにいる乳幼児連れの親子さんも自然とどのようにかかわるかといつも探しているので、そこにリーチする何かがあると嬉しいなと思います。先ほど川村委員から若い次の人も育てているというお話があり、そのあたりもみえてくるともっと良かったと思います。これがこれからまたどう次の世代につながっていくのかが見えてくると嬉しいなと思います。 （戸川委員長）採点お願いします。 （委員）**採点**

	(2)　企業の部 **<u>エアーサクセスジャパン株式会社</u>** **＜意見交換＞** （為崎委員）「磁力推力発生機構による無給発電装置」に環境負荷軽減効果は認められますが、どちらかと言うと除菌対策が中心と感じました。 （北村委員）応募書類から、環境にどのような影響があるのかが読み取ることができませんでした。 （戸川委員長）ほかに御意見がないようですので、採点をお願いします。 （委員）**採点** **<u>株式会社エナ・ストーン</u>** **＜意見交換＞** （北村委員）横浜も販売対象となっていますが、まだ実績はないとのことですが、今後横浜にこのようなものができたらいいなという未来を含めて評価をしました。小さな会社ですけれど、環境のために何とかしてやるぞ、という意気込みは伝わってきましたし、未来に向けてを含めて評価しました。 （為崎委員）県外では先進的な取組をされていて面白いということで、神奈川県内や横浜市内で展開するご予定を質問で投げたのですが、横浜市内も対象だと回答がありました。ですから少し迷うのですが、今の段階で期待を込めて評価をするのか、もう少し待った方がよいのか、やはり横浜での実績を積んでから、きちんと評価したほうがいいのかというのは迷うところではありました。 （川村委員）横浜で活動したことを表彰するのでしょうか。エナ・ストーンさんは非常に先進的なところで、安価に EMS を作っているということですが、横浜での実績はなかったので、評価はしなかったのですが。 （戸川委員長）「横浜において先駆的な環境配慮型製品の開発や導入などを行っているか。」と審査基準に書いてあり、横浜での活動がないと評価対象にはしづらいところはあります。 （川村委員）市民団体や児童などは横浜での活動というのはやりやすいと思いますが、企業はやはり横浜に限定すると難しいですよね。 （戸川委員長）特に本企業のようなデジタル系は、ローカルに落としているというのは、特に難しいと思います。 （為崎委員）戸川委員長の評価の理由を教えていただけますでしょうか。 （戸川委員長）横浜で何をしたのかというのが全然見えてこなかったためです。審査基準にも「全国的に実施例があっても、横浜において新たな活動であった場合には評価対象とする。」という一文があります。横浜での実績がないと足りないなという印象を受けますが、だからといって、審査基準が今の時代にあっているのか、そのアンマッチさはわかりません。横浜での活動という一文を入れたのも、相当過去の話です。確かに、北村委員のおっしゃるとおり、応募書類から環境に対しての意気込みは感じます。

	それでは、採点をお願いします。 （委員）**採点** **<u>株式会社 JVC ケンウッド</u>** **＜意見交換＞** （為崎委員）本業の製品そのものは環境ではありませんが、それ以外の活動のところは非常に多様で、横浜に根付いた活動をしています。地域貢献度やモデル性は非常に高いと思いました。 （石原委員）北村委員の事前採点のコメントでは、「大企業の取組としては一般的」とあったが、実際にはかなり応募書類に書かれていないような細かい取組もされています。さまざまな環境保全の活動に取り組んでいらっしゃって、代表者をはじめ全従業員の環境意識も高く活動を行っているという印象を受けました。そのため、評価を高くしています。 （川村委員）非常にオールラウンドでしていらっしゃるので、業界団体の中でも主導的な役割を果たしています。また、プラスチックのことも始めるというので、将来的にも主導的な役割を果たしていくのであろうと思います。かなり評価は高いと思います。 （北村委員）応募用紙の中で、一つ一つの活動が薄まってしまったのかなという気がします。もちろん、横浜環境活動賞として表彰すべき内容ではありますが、大賞として推すかという話になった時に、ここだよ、という注目ポイントがあると評価はしやすかったと思います。全従業員の姿勢が良いという話になってくると、今回の応募の他団体で、従業員一丸となって取り組んでいるとアピールしてくる企業があったので、たくさんの取組を実施したがゆえに、アピールポイントが絞り切れなかったというところがある印象です。 （戸川委員長）エコ推進計画 2020 というのがあり、次の策定をしていて今答えられないという回答が多くありました。2020 年の振り返りと新しい計画の策定で応募してもらえれば良かったと思っています。この時点で、何を評価するのだろうというのは正直言ってあります。ただ、活動自体は及第点以上はされているので、そこはしっかりとした評価は必要だと思っています。せっかくそのような計画があるとすれば、ぜひそれを策定したときに出していただいて、次は大賞を狙っていただきたいなと思います。タイミングがもったいないと思いました。2020 年の振り返りがまだ出ていないんですよね。 （北村委員）先ほど「目玉になる取組がほしい」と私が言いましたが、その振り返りと新しい計画の策定は目玉になりうるということですね。 （戸川委員長）ここから、2030 年、2050 年に向けて大きく社会のルールが変わっていくので、またリーチしてくると思いますが、ここで判断するべきかという話になりそうです。取組自体は及第点以上ということは間違いないです。 採点をお願いします。

	（委員）採点 **<u>武松商事株式会社</u>** **＜意見交換＞** （鈴木委員）市民目線としては、このような活動が一番わかりやすい。横浜市内で取り組んでいる、子どもたちを対象として行われているなど、循環させているというのがとても見えやすい活動です。 （為崎委員）体制がよく整備されていることと、仕組みが整えられ、全社的に徹底されていることに着目しました。企業全体で、よく推進体制が整えられているという印象を持ちました。エコクルファクトリーとは目に見えてわかりやすいものですが、これは独自性があるものなのかどうか考えたときに、公的な機関でもリサイクルセンターというのはあったりするのではないかと感じました。独自性はないかもしれないが、少し注目しましたのはアップサイクルです。デザイナーさんを内部に抱えていらして、そのデザイナーさんを活用し、単にそのまま販売するだけではなく、アップサイクルでデザインして良いものにして仕立てあげるのは注目するべき取組だと思いました。 （北村委員）アップサイクル、面白いと思いました。昔からある取組ではありますが、よく見るとエコクルファクトリーの２階に常設施設としてアップサイクル工房があり、このようなところも常設にしたということが、良いと思いました。このような基盤をつくっているのは良いと思い、私は評価を高くつけました。他の企業と比べてどのくらい先進的なのかどうかということは、戸川委員長にお聞きしたいです。 （戸川委員長）正直に申し上げて、取組はすばらしいと思います。産廃業者といわれている方々が、このようなことにシフトするという取組は今まさに始まっているところです。新しい流れとして確実にその流れはあります。ただ、これがどのくらい機能して動いているかというのは、応募書類からはまだ読み取れないかと思います。ポジショニングとこれから推進していくという気持ちは応募書類から汲みとれます。先進的なことを率先して行う会社という印象です。 （川村委員）概念としては面白いが、実質的にどのくらいやっているかということに関しては、わかりかねる部分はあります。ホームページなども見てみましたけれど、まだまだこれからかなという気がしました。実質的にはまだ大きな活動にはなっていないという印象です。 （戸川委員長）それでは、採点をお願いします。 （委員）**採点** **<u>東京レーダー株式会社・本社工場</u>** **＜意見交換＞**

	（為崎委員）財務状況が芳しくなかったので、質問したところ、携帯電話の量産から EMS 事業に転換したとのことで、新たな事業で非常に頑張ったという部分があります。なおかつ、環境に関して、一人ひとりが自分の担当業務で環境を考えるという記載がありました。改善提案制度から家庭用オーブンを採用するという、身近なところからの発想で社員一人ひとりが考えているというところが、中小企業の自分たちが無理なくできることを考えているというという点でモデル性を感じました。 （北村委員）全社的に取り組んでいるという意気込みが伝わってきたのが一番のポイントです。そのようなところで評価するのは良くないかなと思いつつも、そこが良いと思いました。どの企業も SDGs といっているので、そこは一緒くたなのですが、2019 年 3 月の段階でこのような宣言を会社で実施したということは評価したいと思っています。世の中では段々と SDGs というものがある、という段階だったと思います。そこを全社員の朝礼で宣言をし、会社としてこれから取り組んでいくぞという意志を見せたというところは良いと思っています。 （戸川委員長）やっと eco 検定の受験をし始めて、良いことだと思います。すばらしいです。もう一回転してからエントリーしていただくと、すばらしいと評価できるのですが、この eco 検定の受験をし始めたというキックオフを応援できるかという視点に立ち、どう評価できるかというのは審査委員の皆様にお任せいたします。 （北村委員）私も eco 検定は注目していました。コメントに書き忘れていました。 （戸川委員長）資料の作り込みも SDGs をとても意識して作成されており、すばらしいと思います。 それでは採点をお願いします。 （委員）**採点** <u>**有限会社マルニ商店**</u> **＜意見交換＞** （為崎委員）単なる小学校向け、というのではなく、学年に応じたきめ細やかな取組ができていると感じました。やはりサイダーは面白い取組で、循環のサイクルの全体を見せるという意味で、とてもユニークな取組だと思いました。 （戸川委員長）２回目のエントリーとなります。そこからの新しいことが評価の対象となります。 ほかに御意見がないようですので、採点をお願いします。 （委員）**採点**

	(3)　児童・生徒・学生の部 横浜市立市ケ尾中学校 ＜意見交換＞ （為崎委員）生徒会の活動から始まって、全校生徒へ波及させてから、まだそれほど日にちが経っていないというところで、全校的な取組としてどのように評価したらよいのかと迷いました。エコバッグについても面白いと思いますが、エコバッグが普及してどれだけ成果につながったかというところは現段階では見えにくい部分があり、今後期待が持てますけれど、現段階の活動の成果をどう評価したらよいのかということで迷う部分もありました。 （北村委員）最近はやりの題材なので、どのように評価したらよいかと思っていますが、海洋プラスチック問題という大きな題材を、生徒たちができるところに落とし込んだのが良いのかなと思っているところです。エコバッグの効果がよくわからないというのは為崎委員のおっしゃるとおりなのですが、活動を始めた時期を考えると、今プラスチックが問題となって、昨年レジ袋が有料化になってくるという時期よりも少し前から始めているというところで、その時に何ができるかということを自分たちなりに考えたゴールの１つなのかなと思っています。 ただ、これだけだとこのままになってしまうので、今後何か画期的な取組が出てくるといいなと思っています。 （戸川委員長）ESD 推進校としては、横浜の中学校で ESD 推進校といえば市ケ尾中学校というくらい有名な学校です。やはり SDGs が出てきてから活動を始めたということで、活動期間が短いのかなと思います。この学校の特徴は生徒会が中心となって SDGs を校内に広めていきましょうと活動を始めたことです。開始して、まだ３年くらいです。その面ではこれからを期待というところはありますが、生徒が自主的に行うところは、非常に評価が高いという印象です。生徒会が中心になって全校生徒を巻き込んでいくというのが本当の力点ですので、応募書類にそこを書いていただけるともっと評価がしやすかったのではないかと思います。 （為崎委員）今の段階で既に全校生徒が取り組み、全校生徒に行き渡って全校的な活動になっているという理解でよろしいでしょうか。 （戸川委員長）そうですね。 （川村委員）応募書類からは、生徒会だけが活動していると思っていました。生徒自らのはたらきかけで、読売中高生新聞の記者に取材に来てもらい話をしたというのは、生徒会が頑張って行っているという理解で、自主性が高いと評価してよろしいでしょうか。 （戸川委員長）そこまで言われるとよくわかりません。ただ、大人がフォローはしているかもしれませんが、間違いなく発案は彼らだと思います。 （鈴木委員）学校というのはどんどん卒業して生徒が入れ替わるところですので、生徒会が次々とつなげていくという取組であればそれで活動が継続すると思います。また、生徒会の７人から広まったというのも良いと思いました。

	（為崎委員）エコバッグという手法は良いと思いましたが、少し気になった点は、自治会町内会に買い取ってもらえたのは、環境の意識を持って買い取ってもらったのか、中高生が頑張っているから応援したいという理由で買い取ってもらったのかというところです。ですからそこに環境がメッセージとして伝わるような配布の仕方なり、買い取ってもらう方式などがあると良かったように思います。中学生なりのメッセージ性があるのかないのかというのが応募書類から見えなかったため、今後工夫していただけると良いと思います。 （戸川委員長）非常に難しいです。小学校と異なり授業にも含まれませんし、カリキュラムが決まっている中で中学校で取組を行うというのはすごく難しいことです。大学はまた別の形があるので活動しやすいですけれど、中学や高校は活動としては難しいと思います。そのような中で生徒会が取り組んでいるというのは面白いと思います。 それでは採点をお願いします。 （委員）**採点** **<u>横浜市立折本小学校</u>** **＜意見交換＞** ●折本小学校 （鈴木委員）花いっぱい運動というのは、どこの小学校でも行っている活動ですので、どのように活動を広げられているのかと思い、応募書類を見ました。育苗もされていて、取組がつながっていくというところが、すごく応募書類からも読み取れたので、評価を高くしました。 （為崎委員）生徒の自主性を重んじているので、逆に新たに取り組み始めたものは継続されるのですかと質問をなげかけたところ、おそらくすると思いますという回答でした。自主性を重んじるのと、学校の活動として次につないで継続していくことをどうとらえるのか難しいと思いました。自主性はとても大事ですが、続かないとなると、そこをどう考えるのか難しく、判断に迷いました。 （北村委員）花いっぱい運動を推しているというか、これが最終的にどうなっていくのかもう少し見えるといいなと思いました。本当にみんなが好きでやっているのかなという穿った目で見てしまうと、この子たちが大人になった時に、「やっていたよ」というのか「やらされていたよ」と言うのか、「あれがいい経験になった」や「環境のために役に立った」というようなきちんとした体験になれているのかというところが実際はどうなんだろうと思いました。 その一方で、委員のどなたかが生物多様性特別賞に推薦されていましたが、カブトムシの取組は私も非常に面白くて良いと思っています。応募書類を読み込むと、最初のきっかけが子どもたちの発見から始まり、それを一つのプロジェクトにしていくという流れは非常に良いです。このようなことがきっと学校の

	中にたくさんあり、花だけではなく、もっといろいろな活動があるのかなと思います。ほかのさまざまな活動も含めて全体がもっと見えてくると良いと思いました。 （戸川委員長）それでは採点をお願いします。 （委員）**採点** **横浜市立永田台小学校** **＜意見交換＞** （北村委員）米と田んぼの着眼点はありふれていると言ってしまうとそれまでなのですが、エコプロに出展している点が本当にすごいと思っています。日本で環境において一番大きなイベントがエコプロだと思っていますので、そういうところに参加するというのが、環境のいろいろなことを学ぶ一番の近道です。例えば学校の中でどんなことをしていても、それが世の中にどう評価されるのかという本当の評価は、エコプロのような場がしてくれるのだと思います。環境を学ぶ一番の近道をしていて、そこで学べることが本当に大きいと思います。そういったところに意欲的にチャレンジする取組を私としては評価したいと思っています。こういうことが続いていくと、どんどんブラッシュアップしていって、今後の活動も良くなっていくのではないかと思っているところです。 （為崎委員）私も学校の取組なのに、閉じられていないところが良いと思いました。エコプロに出て発信していることももちろんですし、２年生が野菜を育てていてそれを NPO のサロンに配達するとか、自分たちの中で完結せずに、外とつながりながら外に向けて発信していくということが、注目点だと思います。 （戸川委員長）エコプロ展に参加したことがある方はご存じかもしれませんが、会場では突然小学生が寄ってきて「自分の発表を聞いてください」と積極的に言ってきます。これがこの永田台小学校なのです。「自分で取り組んだことは自分で発表すべき」という考えで、そうすることで自分のものになる、という考え方が学校にあります。 （鈴木委員）サロンの件で、永田台小学校の子どもたちと何度かお会いしたことがあります。本当に積極的で、やはりこのようなベースがあるのだなと思いました。 （戸川委員長）採点をお願いします。 （委員）**採点** **３　生物多様性特別賞審査** （戸川委員長）これより「生物多様性特別賞」について審議します。事前審査の結果について、事務局から説明をお願いします。

	（事務局）事前審査で生物多様性特別賞への推薦があった応募者は、横浜植物会様、折本小学校様となっており、推薦の該当なしとの事前審査もいただいています。ご討議、そして審査をお願いします。 （戸川委員長）ご意見ありますでしょうか。 **＜意見交換＞** （戸川委員長）横浜植物会様からお願いします。 （川村委員）私は先にもお話しましたが、このような調査というのは、学識関係者がする調査というのは、普遍的なものを追求するという長年の慣習があるために、１つの地域の中を徹底的に調査する、それも長年にわたって調査をするというのは、あまり得意ではないのです。なおかつ、人が変わってもそれをやり続けるという、そのようなデータというのは本当に必要で、特に生態系に関してはこのようなデータこそ意味があり、これまでの普遍的な原理を追求するような科学が手をつけられない領域もたくさんあります。それを科学者がやると、我々のような大学関係者はすぐ結果が出るとかすぐ論文に書けるなどそういったレベルのものをつい追求しがちになるという流れがあります。こういうデータはものすごく重要なのにもかかわらず、なかなか手が付けられない。そういうところに関して市民が、それも多くの人数を動員しながら長年のデータを蓄積していく、それでいてなおかつ、人も育てるというのは本当にこれこそ必要と私たちは感じます。ですので、単にデータが意味があるというだけではなく、調査手法に関しても市民の教育に関してもすべてにおいて卓越しているということで推薦したいと思いました。 （北村委員）簡単に言うと、長年の取組が非常に素晴らしいことを評価したい。前回の時には、「生物多様性特別賞」というのはなかったはずなので、あらためて表彰するという形が良いと思っています。ただ少し心配なのがこのような団体が受賞してしまうと、ここまでしないと受賞できないのかと思われるのも良くないと少しだけ思っているところはあります。ほかにいい取組があっても、長年の取組をしているところと比較されて今年とれなかったというところが出てくることも少し良くないと思っています。そこで、推薦理由の中で、私が次点としては永田台小学校の田んぼの取組を推薦しましたし、石原委員の推薦の折本小学校の取組も良かったと思いますが、１つだけ選ぶということであれば、横浜植物会だということは付け加えさせてください。あと、川村委員に少しだけ反論すると、この会の立ち上げにあたって牧野富太郎先生が指導者となっており、牧野先生が科学者の視点として先見の明があったということで、科学者にできないと言われますが、牧野先生の功績が大きいのではないかと私としては思っています。 （鈴木委員）活動する方の年代を拝見すると、高齢の方々の集まりで今後の会の運営はどうなってしまうのだろうと読み取れなくて、配点を少なくしました。生物多様性というところではやはりとても貴重な会だと思います。私たちもよく子どもたちと一緒に自然観察会をしますが、その先生も「私は牧野富太郎先生の弟子の弟子くらいなんだよ」とわざわざ先生のお名前を出します。これから

	先もこの活動がつながっていき、私たちのような市民のレベルにも良い活動がつながっていくことを期待して推薦しました。 （為崎委員）ほとんど意見が出尽くされたというところですが、私は応募書類を見るときに、「市民の部」を一番最後に見ました。「児童・生徒・学生の部」で生物多様性特別賞の対象として気になる団体はありましたが、もうひとつ徹底しているかどうかわからないというところで応募書類を読み進め、最後に横浜植物会を見て圧倒されたというのが正直なところです。皆さんおっしゃるように111年にわたって記録を続けてきている。さらに最近も継続して止めていないというところで、植物の変遷がたどれる、記録に残っているというところを高く評価したいと思いました。 （戸川委員長）次に、折本小学校様についてお願いします。 （石原委員）このような貴重な経験を積んで子どもたちが成長していくという取組に対してエールを送りたく、この特別賞を贈って応援したいという気持ちがあり推薦しました。 横浜植物会の取組に関して皆様の御意見を伺いますと、111年も貴重なデータの積み上げなど非常に意義のある活動をされていらっしゃいますので、横浜植物会はすばらしい活動をされていると思いました。 （戸川委員長）最後に、該当なしとした委員から御説明お願いします。 （吉井委員）一般市民の立場として委員の皆さんの御意見を聞き、このような視点があるのかと大変勉強になりました。私としては、「良い活動をされている」という視点で配点をさせていただきました。 （戸川委員長）正直に言いますと、もっと生物多様性に関する取組を書いてほしいと思い、該当なしにしました。なぜもっと皆さん積極的にアピールなさらないのかなと思いました。奥ゆかしいのでしょうか。 （北村委員）奥ゆかしいのが半分と、生物多様性の問題が完全に理解されておらず、取り組んでいることが生物多様性につながっていることの自覚がないというのが半分というところかなと思います。どこもやはり生物多様性に関する取組を書けるとは思いますが、あえて書いてくださいということになると、本当にこの取組なのかなと応募者自身が思ってしまうというのが毎年の傾向だと思います。そういう意味で、折本小学校は、「これが僕たちの生物多様性の取組だ！」というところを推してきて、わかりやすい取組で一連の流れがわかるように推してきていただいたので、本当は横浜植物会さんがなければ、折本小学校を推薦してもおかしくはないと思っています。そのようなところも、きちんと世に出したいというか、今年は運が悪かったんだということをお伝えしたい気持ちがあります。 （戸川委員長）それでは、投票をお願いします。 （委員）**投票**

	４　第 28 回横浜環境活動賞受賞候補者の決定 （戸川委員長）受賞候補者の決定を行います。はじめに、市民の部について、事務局から集計結果を報告してください。 （事務局）**採点結果を表示** （戸川委員長）審査基準に基づき、７団体とも 15 点以上ですので、実践賞の候補とします。 （委員）異議なし （戸川委員長）次に、大賞候補です。審査基準により、点数が一番高い者が大賞候補となりますので、最高得点の横浜植物会様を大賞候補とします。 （委員）異議なし （戸川委員長）続いて企業の部の結果をお願いします。 （事務局）**採点結果を表示** （戸川委員長）15 点以上の５団体について、実践賞の候補とします。 （委員）異議なし （戸川委員長）次に、大賞候補です。審査基準により、点数が一番高い者が大賞候補となりますので、最高得点の有限会社マルニ商店様を大賞候補とします。 （委員）異議なし （戸川委員長）続いて、児童・生徒・学生の部の結果をお願いします。 （事務局）**採点結果を表示** （戸川委員長）審査基準に基づき、３団体とも 15 点以上ですので、実践賞の候補とします。 （委員）異議なし （戸川委員長）次に、大賞候補です。審査基準により、点数が一番高い者が大賞候補となりますので、最高得点の横浜市立永田台小学校様を大賞候補とします。 （委員）異議なし （戸川委員長）続いて、生物多様性特別賞の集計結果をお願いします。 （事務局）横浜植物会様が６票、横浜市立折本小学校様が１票です。該当なしは０票です。生物多様性特別賞の候補は、横浜植物会様とします。 （委員）異議なし （戸川委員長）これですべての審査を終了しました。何かご意見があればお願いします。ないようですので、以上で議事を終了します。事務局に戻します。 （事務局）本日の会議録については、公表となります。また、応募書類につきましては、規約・定款、役員名簿、収支書類及び個人情報を除いて、ホームページに掲載させていただきます。ご了承くださいますよう、お願いいたします。 　本日の審査委員会の審査をふまえ、市長が受賞者を決定します。詳細については、別途ご連絡いたします。事務連絡は、以上です。 以上をもちまして、第 28 回横浜環境活動賞審査委員会を閉会いたします。 長時間にわたり、ありがとうございました。

資　　料	1　次第 2　資料１　横浜環境活動賞審査委員会　委員名簿 3　資料２　横浜環境活動賞実施要綱 4　資料３　横浜環境活動賞審査委員会運営要綱 5　資料４　審査基準（市民の部／企業の部／児童・生徒・学生の部／特別賞） 6　資料５　応募者一覧（五十音順） 7　資料６　（参考資料）これまでの受賞者一覧 8　資料７　今後の予定